

2025 年 9 月 28 日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒464 番（SK 姉）

『わが心に住まわんと』

聖書⇒コリント信徒への手紙一 1 章 18 節（MM 姉）

『十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。』

礼拝讃美歌⇒137 番（旧 211 番詞）

『十字架の許で』

聖書⇒ヨハネによる福音書 10 章 11、15b 節（KH 兄）

『わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

わたしは羊のために命を捨てる。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 13 節

『友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒40 番（旧 50 番）

『イエスはわがため』

## 《パン裂き》

聖書⇒詩編 32 編 1~5 節 (SK 兄)

『【ダビデの詩。マスキール。】いかに幸いなことでしょう／

背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。

いかに幸いなことでしょう／

主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。

わたしは黙し続けて／

絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。

御手は昼も夜もわたしの上に重く／

わたしの力は／

夏の日照りにあって衰え果てました。〔セラ

わたしは罪をあなたに示し／

咎を隠しませんでした。

わたしは言いました／

「主にわたしの背きを告白しよう」と。

そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを／

赦してくださいました。〔セラ』

聖書⇒1kori11 章 23~26 節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒4 番 (旧 7 番)

『アバ父と紙を』

## 《建徳》

聖書⇒ヨハネの手紙一 2 章 14 節 (CN 兄)

『子供たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

あなたがたが御父を知っているからである。

父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

あなたがたが、初めから存在なさる方を／

知っているからである。

若者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

あなたがたが強く、／

神の言葉があなたがたの内にいつもあり、／

あなたがたが悪い者に打ち勝ったからである。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 1 章 1~3 節

『初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。——この命は現れました。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。——わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 2 章 12~13 節

『子たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

イエスの名によって／

あなたがたの罪が赦されているからである。

父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

あなたがたが、初めから存在なさる方を／

知っているからである。

若者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、／

あなたがたが悪い者に打ち勝ったからである。』

聖書⇒出エジプト記 3 章 1~6 節 (KH 兄)

『モーセは、しゅうとでありミディアン人の祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに來た。そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」主は、モーセが道をそれて見に

来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 4 章 8~11 節

『この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、／

全能者である神、主、／

かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」

玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。

「主よ、わたしたちの神よ、／

あなたこそ、／

栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。

あなたは万物を造られ、／

御心によって万物は存在し、／

また創造されたからです。』

礼拝讃美歌⇒23 番（旧 152 番）

『聖なる聖なる聖なるかな』

《建徳要旨》